

平成25年9月4日

平成25年

第9回教育委員会定例会会議録

大田区役所 教育委員会室

平成25年第9回教育委員会定例会会議録

平成25年9月4日午後2時大田区教育委員会定例会を開催した。

1 出席委員

|      |    |          |
|------|----|----------|
| 横川敏男 | 委員 | 委員長      |
| 鈴木清子 | 委員 | 委員長職務代理者 |
| 藤崎雄三 | 委員 |          |
| 尾形威  | 委員 |          |
| 芳賀淳  | 委員 |          |
| 清水繁  | 委員 | 教育長      |

計 6 名

2 出席した職員

|                         |      |
|-------------------------|------|
| 教育総務部長                  | 勢古勝紀 |
| 教育地域力・スポーツ推進担当部長        | 赤松郁夫 |
| 教育総務課長                  | 青木重樹 |
| 副参事（教育施設担当）             | 下遠野茂 |
| 学務課長                    | 水井靖  |
| 指導課長（幼児教育センター所長兼務）      | 菅野哲郎 |
| 副参事                     | 長塚琢磨 |
| 学校職員担当課長                | 室内正男 |
| 教育センター所長                | 菅三男  |
| 社会教育課長                  | 星光吉  |
| スポーツ推進担当課長（副参事（国体担当）兼務） | 梅崎修二 |
| 大田図書館長                  | 山本成俊 |

計 12 名

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条及び大田区教育委員会会議規則第3条により、第9回大田区教育委員会定例会を招集した者は、次のとおりである。

委員長 横川敏男

○委員長

ただいまから、平成25年第9回教育委員会定例会を開催する。

これより審議に入る。本日の出席委員数は定足数を満たしているので、会議は成立する。次に、会議録署名委員に尾形委員を指名する。

日程第1 「教育長の報告事項」

○委員長

教育長から報告を求める。

○教育長

資料) 平成25年度全国学力・学習状況調査結果を踏まえた学力向上の取組の方向性について(参考)

私からは、平成25年度全国学力・学習状況調査結果を踏まえた学力向上の取組の方向性について、参考資料を御覧いただきながら説明したい。

このたび、全国学力・学習状況調査の結果が発表された。大田区の学力向上の取組については、おおた未来プラン10年とおおた教育振興プランの中で、学習効果測定の中学校3年生の数学において、期待正答率を上回る生徒の割合を、平成25年度に60%を超えるという成果指標を設定したが、24年度において既にこの目標を達成することができた。これは、区民や区議会に対して約束していることで、公表も行っている。今回発表された全国学力・学習状況調査結果については、学力を判断するにあたり、有力な参考資料の一つとして、その結果を分析し授業力改善に役立てていきたいと考えている。

そこで今回の結果だが、小学校においては、大田区は国語A、国語B、算数A、算数Bの4科目について、全て都の平均及び全国平均を上回っている。特に国語Aについては、都道府県別では東京都が全国8位ということだが、福井県が全国3位で、大田区はその次の4位くらいのレベルだと思う。このような比較を行うのは、大田区は人口約70万人で、小さな県に相当あるいは上回る大きさで、商・工・住のバランスがとれている地域性の豊かな都市であり、都道府県と比較する意義が十分あるからである。

小学校の国語Aの結果については、大田区の小学生の潜在的な能力の広がりを示すものと考えており、算数その他の科目についても、同じようなレベルに達する可能性も期待できるのではないかと思う。小学校の先生方には、学力向上に向けてさらに頑張ってくださいと思っています。

次に中学校だが、国語A、国語B、数学A、数学Bについては、東京都の平均及び全国平均を上回ることではできなかった。ただし、全国平均との差は0.5から0.9ポイントの範囲内に収まっているので、平均点があと1ポイント上昇すれば、全国平均を上回ることができる。ほぼ全国平均並みなので、学力が向上する余地が多分にあると思っている。

学力向上については、おおた教育振興プランの策定から約3年間、各小・中学校において努力を重ねているが、小学校の低学年から学力を徐々に積み上げて中学校に移行するこ

とを考えると、現在の3、4年生が中学校に移行した段階で、これまでの取組の成果が発揮されてくるのではないかと思う。中学校において一層の努力をしていただければ、さらに向上するのではないかと期待している。

この学力調査の結果とあわせて参考になるのが右の表で、朝食を食べているかとか、普段何時ごろ起きるかとか、自分にはよいところがあると思うかとか、家で学校の宿題をしているかという、いくつかの問いかけに対する答えと、学力との相関性を表している。

その中で気になったことは、この表には出ていないが、中学校の例をとると、数学の勉強は好きかという設問に対して、はっきり好きだと答えた者の平均正答率は非常に高いようである。数学が好きだと答えた者が全体の28.3%で、その平均正答率は72.9%である。一方、数学が嫌いだと答えた者の平均正答率は50.5%で、20ポイントの開きがある。これはある意味では当然のことで、数学が嫌いだと言いながらトップクラスの点数をとることは通常考えられない。嫌いだから勉強をしない、したがって点数も低くなる、という相関性は明確にあると思う。

もう一つは、学校の授業時間以外に1日あたりどのくらい勉強するかという設問についてだが、月曜日から金曜日までの間で、塾などの時間もカウントされる。3時間以上勉強すると答えた子どもは、全体の13.6%で、数学Aの平均正答率が70.3%である。一方、授業以外全く勉強しないという子どもは全体の7.3%いて、平均正答率は44.3%で、26ポイントの差がある。

小学校の算数においても、これと同様の傾向を示している。

勉強の好き嫌いというのは、担任の教え方や、担任に対して尊敬の念を持っているか、あるいはクラスが勉強ができる環境にあるかなども関わってくるし、集中力、意欲などもそういうことに影響を受ける。先生の人格的な魅力や授業力が後押しをして、勉強が好きになるということもある。もちろん、家庭が十分関心を持って、子どもたちの勉強を見ているかという態度にも影響されると思う。

先ほど申し上げたように、中学生で授業以外全く勉強しないという子が7.3%いて、30分以下しか勉強しない子を含めると17.3%、つまり約20%の子がほとんど勉強しないということである。そういう子は、たくさん勉強している子と比べて20ポイントぐらい点数が低い。勉強の絶対量と成績との相関関係を明確に示している。勉強を全くしない子は、意欲や継続する力がないということだから、これを改善することが課題である。忍耐力、継続する力、これらを支える意欲、また、家庭が関心を持って子どもを見ているかということが関係していると思う。

もう一つは、学校の規則を守っているかどうかで、守っていると答えた子の数学Aの平均正答率は66.6%、守っていないと公言している子の平均正答率は35.7%で、30ポイントの開きがある。どういう状態をもって規則を守っていないかということは、いろいろな目安の相違はあると思うが、いずれにしても規範意識があまりない子については、勉強に関しても意欲や継続力がないということである。家庭においても、おそらく勉強する環境にはない子が多いのではないか。規範意識と忍耐力や継続力というのも関係していると思う。

特に塾にも行かず、家庭学習もゼロあるいはそれに近い子どもに対して、どうしたら意欲を持たせることができるかということが、これから一番大きな課題になってきて、具体

的な取組が求められると思う。

先ほど申し上げたように、家庭に子どもの教育について関心を持ってもらい、家庭と学校との協力体制を明確にし、結果が後から分析できる形で示していく必要がある。

また、勉強の絶対量を増やすにあたって、勉強がなかなかできない要因というのがあると思う。交友関係や家庭関係で悩んでいるとか、いらいらするとか、やってもできないとか、そういう勉強が進まない原因を担任が把握し、スクールカウンセラーに相談したり、担任自身が相談に乗ってあげたり、あるいは学校支援地域本部の人に話を聞いてもらったりして、意欲を発揮する阻害要因となっているものを除去して、その子の潜在能力を十分発揮させることが決め手だと思うので、そのあたりの工夫を各学校において行ってほしい。

また、先ほど申し上げたように、教師の授業力を高め、おもしろく、興味を持たせるような立派な授業をしていただくことが大事である。

あとは、子ども同士の交流を活発にして、集団の中での自分の存在感を明確にした上で、いじめなどの意欲を阻害する要因を集団の中で除去できるようなクラス運営とか、子どもたちの自発的・自立的な集団形成というものを、学校の中でも推進していくことが求められているのではないかと思う。

#### ○委員長

ただいまの教育長の報告に、質問や意見はあるか。

#### ○尾形委員

私は今、文部科学省の全国学力・学習状況調査の結果を持っているのだが、そこに高知県の例が取り上げられている。高知県は平成19年度から21年度まで、小学校ではほとんどの教科で平均以下、中学校でも大きく下回っていたのだが、今回はほとんどの教科において飛躍的に伸びているということで、どういう取組を進めた結果、このように飛躍的に伸びたのかということ进行分析している。

高知県の取組の一つに、授業や家庭学習で活用できる教材の作成・配布というのがある。大田区もこれと同じように、ステップ学習を取り入れている。二つ目は、放課後対策を充実し、補習学習を実施している。大田区も同じように、補習教室などを平日も土曜日もやっている。また、高知県版学力調査の実施による授業改善等の効果の検証を行っている。同じく大田区も、大田区版の学力調査である学習効果測定をやって、検証している。やはり、このように大田区の教育政策が各学校に浸透し、各学校で一つ一つ丁寧にやっていただいた結果、今回大田区の学力も飛躍的に向上したのだと思う。

特に、私がすごいと思ったのが小学校の算数Bで、これは、主として活用する問題だが、これが全国や都に比べてもよい。大田区は今、講師を雇って少人数学習を行い、問題解決型の授業を徹底している。そういう取組により、この活用能力が伸びたのかと思う。また、国語のAはすばらしいが、さらに国語Bもよい。大田区が毎年数校を研究奨励校に指定し、そこで研究を行ない、その成果が各学校に反映しているのかと思う。大田区の取組が、非常に効果を得ていることが実証されてきたのかと思う。

「現状維持は後退なり」という言葉があるが、ぜひ今回の結果や、学習効果測定の結果

を学校ごとに詳しく検証して、さらに伸ばしていただければと思う。

そして、学力向上に向けた取組をして、成果があった学校については、校長会や副校長会などで紹介をして、それをさらに普及させたらよいと思う。

また、学習習慣についてだが、家で学習する習慣の付いている子は学力が高いとはっきりわかっているのだから、各学校の実態に応じて、子どもたちに学習習慣を身に付けさせる必要がある。例えば、全然勉強していない子どもには、その子に応じた宿題を出すなど、そういう細かい取組が必要なのかと思う。

次に、生活習慣についてだが、やはり生活習慣が身に付いている子は学力が高いということなので、保護者にも啓蒙していただき、一緒に取り組んでいく必要がある。

また、規範意識についても、規範意識の高い子どもは学力が高いということなので、いろいろな場面で学校は保護者と連携をとったり、学校の情報を流したりして、一緒になって取り組んでいただければありがたいと思う。

## ○教育長

今の尾形委員の話と関連するが、確かに高知県は、去年は小学校は最下位に近かったと思うが、今回の結果を見ると、国語Aが10位、国語Bが19位、算数Aが9位、算数Bが24位で、そこまで上がったというのはすごいことだと思う。ただし、中学校に関しては、国語Aが45位、国語Bが43位、数学Aが46位、数学Bが46位で、あまり奮っていない。

多分、小・中学校一斉に学力向上に向けた取組をしたと思うが、中学校よりも小学校の方が、比較的容易に学力を上げられる要素があると思う。取組の結果が実績として表れるには、ある程度の期間が必要なので、中学校の段階で1年で学力を上げるというのはきわめて難しいかと思う。小学校は成績がよいが、中学校はあまりよくないという県と、小学校・中学校大体同じような順位の県と、二つに分かれている。

もう一つの例は、5年位前に当時の大阪府知事が教育委員会のやり方を問題視して、教育改革ということで教育委員を一掃して思い切った政策を導入し、この間、100マス計算の陰山さんを始め、相当力を入れてきたが、今回、小・中学校ともに全国平均を下回る状況になっている。ただし、小学校については、国語Aが36位、国語Bが32位、算数Aが25位、算数Bが29位で、ラストの方からは一歩持ち上がってきている。一方、中学校については、国語Aが46位、国語Bが46位、数学Aが41位、数学Bが43位ということで、小学校と比べると学力が向上したとは言えない状況で、その差がかなりある。

大阪府は相当思い切った取組をしたと思うが、その成果を出すには一定の熟成期間があって、その中で子どもたちの自発的な意欲が出てくる必要があるので、やはり中学校に入ってから、あるいは小学校5、6年生位の段階からでは難しいのかと思う。小学生の場合は、自発性もあるが、他力的に学力向上のインパクトを与えることも可能だと思うが、中学生というのは思春期で、様々な事柄について悩んだり、自分の中での価値観の動きもあったりするので、自発的に意欲を持つようにならないと、持続的な勉強というのは難しいところもあると思う。

高知県も大阪府も、そうしたことから、小学校と中学校の間のギャップが出ているのかと思う。大田区はそれほど小・中学校の差はなく、中学校ももう少しで全国平均ということまでいっている。学習効果測定で期待正答率を上回る生徒の割合が60%以上というの

はクリアしているので、学力が向上していることは間違いないのだが、やはり客観的な学力調査の中で、全国平均を突破していく必要があるのかと私は思っている。小学校と中学校が同じ位のレベルの区もあるので、そういうところと比べると、大田区の中学校ももう少し頑張るとよいと思う。

#### ○委員長

ほかに何かあるか。

#### ○藤崎委員

今、勉強量が点数に強く反映しているのではないかという話を伺ったが、生活パターンがまだでき上がっていない小学生と、ある程度でき上がっている中学生に、同じような圧力をかけた時に、定着するまでの時間にどの程度差があるのか。でき上がっている生活パターンを壊してもう一回作り直すのと、でき上がっていない生活パターンを作るのと、その差が小・中学校の違いに表れるのかもしれない。

そうすると、まだ生活パターンが固まっていないうちに、いかに家庭学習をさせるかが重要である。家庭学習をさせた方がよいということは、どの家庭も思っているだろうが、やり方がわからない、やりたいけれどもやれないということがあると思う。そのやり方を、どのように提示していくか。教育委員会が影響を及ぼせるのは学校教育のところまでで、家庭とのつなぎは学校がやるべきなのか、それとも、親が独自のものと捉えてやっていくのか。どういう立場でどこまで家庭に手を出していけばいいのかということを感じた。

もう1つは、今回夏休みが終わったが、例えば自由研究など、興味のあることは最初のうちに終わらせてしまうが、興味のないことは最終日までやらないということがある。そうすると、いかに興味を持ってもらうような教え方をすることが重要である。これには答えがないので、学校の先生たちにも悩んで欲しいが、自分の経験で言うと、中学校は専科の先生が教えるので、その科目を好きになるかどうかは、その先生を好きかどうかにもよる。その科目に興味を持ってもらうような工夫や、人間的な魅力というところに力を入れていかないと、試験で点数は取れても、その後活用しようと思わない。

特に家庭学習に関しては、教育委員会という立場でどこまでできるかということ、一度皆で議論したい。塾の先生などでも、「家庭ではこういうところを見てください」「こういう声の掛け方をすると、子どもたちがやる気になります」ということを話せる方はたくさんいるので、講演会を開くこともできるし、教育委員会としてどこまでやるかということ、皆さんと一緒に考えたいと思っている。

#### ○教育長

家庭学習に関して、教育委員会がどこまで手を差し伸べるかということは、以前にも議論があったと思うが、子どもの興味や関心を引き出すにあたっては、親の影響がとても大きいと思う。親自身がいろいろなことに興味や関心を持っていると、子どももそれに影響されて、自由な発想や行動力のある子どもになることが多いと思う。

自由研究など、興味のないものはぎりぎりまでやらないという話があったが、確かに子

どもは、ある程度自由に育てられていると、興味のないことは極力やりたがらないということはあると思う。

先ほど藤崎委員も話されたように、先生を尊敬していたり、とてもいい先生だと思うと、この先生のために悪い点を取ってはいけないということで頑張る場合もあるだろうし、最初はいろいろな動機から勉強を始めてみた結果、テストがよくできたからおもしろくなったということもあるだろう。

どのような方法でそういう意欲を持たせて、持続させるか。家庭学習について、お母さんやお父さんが子どもに対してどのように向かい合ったらよいのかということ、よくわかっていないところもある。その方法論は明確なものがないし、私自身もそれに関してはあまり言えないのだが、尾形委員は校長時代に、家庭学習スタンダードのようなものを作ってやられていたと思うが、いかがか。

### ○尾形委員

やはり、家庭学習で大事なことは、各家庭で生活のリズムを身に付け、習慣化させることである。その生活のリズムの中に、家庭学習を位置付け、身に付けていく必要がある。

学力というのは、大田区でもいろいろな取組をやっているが、その取組をやった後、数値として表れるのはかなり先だと思う。翌年すぐによくなるというものもあるが、多くはもっと先だと思う。やはり何が一番大事かという、小学校の頃からの家庭学習である。子どもが楽しんで、家で一定時間勉強する習慣を小さい時に身に付けることが大事だと思う。

私は、家庭学習スタンダードを作って、1年生から6年生まで何分でどういうことをやるかというものを保護者に通知した。今は、例えば小・中学校一緒になって家庭学習スタンダードを作っている学校もある。少しずつ家庭学習というものが見直されてきて、実践されているのかと思う。

### ○教育長

長塚副参事も蒲田中学校の校長を経験されているが、あまり勉強に興味がなかった子が、中学校に入ってからやる気になっていくということがあるのか。

### ○副参事

私は、中学校1年生になる時の最初の子どもたちへの話や保護者会で、「入って1か月間が大変だ。勉強も増えるし、持ち物も増えるし、部活動もある。でも、この1カ月を大切にしましょう。忘れ物も含めて、子どもの責任であると同時に親の責任です。この1週間でリズムを作ると、残りの3年間はとてもすてきになります。」という話をしていました。

教育委員会としても、学校に向けて家庭学習の勧めという大まかなものは出している。それを各学校がアレンジして、それぞれ保護者に訴えかけている。やはりそういうことは大変重要だと思う。

また、「勉強しなさい」と言っても何をやってよいかわからない場合があるので、私は教員に対して、「そのときわかったと思うのと、身に付いたのは違う。復習する形で、きちんと宿題を出すように」と言っていた。



配布資料の中で、「家で学校の宿題をしていますか」という問いに対して、1と4では大きな開きがある。これはとても重要なことで、この調査は全体で約80項目あるのだが、その中の「予習をしていますか」という問いに対しては、1と4では、例えば国語Aを見ると74.7と67.7で、そんなに大きな違いはない。「復習をしていますか」という問いに対しても、72.3と67.3で、5ポイント位しか差がない。一方、「家で宿題をしていますか」という問いに対しては、20ポイントの差がある。

つまり、しっかりとした宿題を出してあげることが、目的意識を持った勉強につながると思う。私も校長の時にそのような考え方でやっており、生徒の自尊感情もどんどん高まり、学力も伸びたと実感している。

#### ○教育長

指導課長、全体をまとめていかがか。

#### ○指導課長

秋田県の学力調査の結果が、引き続き非常に高いということで、ニュースで取り上げられたが、秋田県は県を挙げて家庭学習ノートというものをやっている。それは、何でもよいので自分が好きなものを勉強してくるというものなのだが、実は今、馬込東中学校が同じことに取り組んでおり、学校を挙げて家庭学習ノートをやっている。毎日、何かしら勉強したことをノートに書いて提出して、それを先生が見る、そういった地道な取組がやはり大事だと思う。

また、大田区では学習カルテと学習カウンセリングというものをやっており、どうやって勉強したらよいのかということ、先生と子どもが一緒になって考える機会を持っている。

また、今回、特によかったことは、読書量の調査というのを毎年やっているのだが、これが明らかに改善されている。平成20年度の1か月の平均読書冊数が、小学生は7.38冊だったが、24年度は9.33冊で、およそ2冊増えている。中学生は、平成20年度は2冊だったのが、24年度は3.16冊で、1.16冊増えている。読解力というのは読書を通して身に付くので、各学校の地道な取組が反映されてきているのかと思う。

#### ○尾形委員

ある調査で読書している子としていない子の学力の差に関するものがあり、東京都のそれを分析してみると、普通国語に関しては読書している子の学力が高いと思うが、国語以外の算数、社会、理科に関しても読書している子の方が圧倒的に高かった。やはり読書というのは、全ての教育の基盤ではないかと思う。

#### ○藤崎委員

読書というのは、文字を読むのに慣れるということなのか、本を読むということなのか。というのは、今、小学生でもインターネットで文字を読んでいる。自分の家庭を見ても、最近漫画本を読む時間が減って、インターネットで文字を読む量が増えていると感じる。文字なら何でもよいのであれば、インターネットを読むことで文字に対する抵

抗感がなくなる。学校の図書館にある本を読ませるといっても、あまり読まない本がほこりをかぶって並んでいる学校もたくさんあるし、どういうアプローチをしていくのが子どもにとってよい結果に結びつくのだろうか。

#### ○尾形委員

本が好きな子どもは、大体お母さんが本好きである。お母さんが本の話をしたり、読み聞かせをしたりという読書環境がある。小学校でも同じで、先生が本好きだと、子どもも読書が好きになる。先生が朝の会で読み聞かせをしたり、本の紹介をしたり、子ども同士で本の読み聞かせ会をしたりというように、読書する環境を整えてあげることが、本好きになるもとになると思う。

今、小学校では、ボランティアの方がたくさん読み聞かせをしてくれる。それももちろん大事であり、ありがたいと思う。その上に、一番身近で大好きな先生が本を読んであげたり、紹介してあげたりという取組が大事である。そこから自分一人で本を読むようになってくる。本を好きになると、読み聞かせではなく、やはり自分で読みたくなるので、そこから本当に自分で読むようになってくるのではないかと思う。

#### ○藤崎委員

今お話を伺っていて気付いたのだが、先ほど文字を読むことに慣れればよいのかと言ってしまったが、そうではなく、インターネットなのか本なのかというのは別にして、その先にある何を知りたいかということが大事で、その先のわくわく感だったり、興味・関心を持たせるための一つのツールということなのだろう。

#### ○鈴木委員

先ほど指導課から話のあった家庭学習ノートや、今、学校が読書を奨励していることが、成績に表れてきているのか思い、大変ありがたい。

教育委員会の管轄ではないかもしれないが、大田区は子育て支援として、親子で一緒に絵本を見るとか、様々なことに取り組んでいる。「三つ子の魂百まで」という言葉があるが、幼児期はとても大事な時期なので、家庭環境は大切だし、小学校に入ったら学校の環境も大切である。置かれた環境によってやる気が出たり出なかったりということがあがる。

家庭学習に関しては、学校の先生がしっかりやってくださっていると思うが、教育委員会としてもしっかり関わっていく必要がある。また、母親や父親の関わり方については、児童館や学校支援地域本部など、地域においてみんなと一緒に協力してやっていくという方法があると思う。今後は、保護者が学校だけに任せておけばいいという意識から抜け出していただいて、学校支援地域本部やボランティアなど、少しずつみんなで行っていきとよいと思う。

また、何事も楽しくなければやる気が起きない。小さいお子さんに英語を習わせる時も、まず歌や遊びから入って単語を覚えていくように、できれば楽しいところから始めて、徐々に膨らませていくことが大事かと思う。

教育委員会がどれだけ関わられるかと考えたときに、あまり無理すると継続はできないと思うので、地域などとも連携して、広く少しずつやっていくことが必要だと思う。

### ○芳賀委員

読書に関してだが、特に小学校の学校公開に行って各教室にある本棚を見ると、伝記物など学年相応の本があるが、全体的に少し古い。

よい本なら、古くて少しくらい手垢が付いていても、子どもたちは構わず読むとは思いますが、もう少し補充してあげた方がよいのではないのかと思うことが多い。図書室に行くのは少し手間がかかるが、教室に並んでいると何かのはずみで手に取るということがあるので、もう少しきれいで手に取ってみたいくなる本があったほうがよいと、学校公開に行くときしばしば感じる。

もう一つは、最近朝の10分間読書をやっている学校が多いようだが、後ろで見ていると、雑然としていた教室がしんと静まって、集中しているという感覚を感じることができて、なかなかよいものだと思う。あのような時間が1日に10分程度あるというのは、効果的なのではないのかと思う。大田区でどのくらい取り組んでいる学校があるのかわからないが、時間の都合がつかずならば、試みてもよい企画だと思う。

### ○尾形委員

朝の読書は大田区ではどの学校もやっているが、朝読書のポイントは、やはり前日までに自分で読む本を決めておくことで、そうすると、ずっと読んで次の授業にも効果的である。

また、教室の本だが、弁解になるかもしれないが、図書館にはよい本を置いてあり、図書館の古くなった本を廃棄するのはもったいないということで、古い本を教室に置いてあるという現状がある。

### ○指導課長

平成17年から平成19年の3年間に、約10億円の区費を投じて学校図書館の蔵書を充実させた。その際、それまで図書館にあった本を、朝読書で読む本がない子のために各教室に分けた学校もあると聞いている。また、図書館のほうでも学級文庫の配本をやっているもので、その中には多少古いものがあるかと思う。

### ○委員長

確かに、私が昔見た本がそのままあるのではないかという感じがする。

読み聞かせについてだが、自分の経験でいうと、ある国語の先生が「今日は1時間全部本を読んで聞かせるから」と言って、ラフカディオ・ハーンの怪談を読んでもらったことがある。それを今でも鮮明に覚えていて、それ以来、私自身本が好きになった。10分でもそのように読み聞かせてもらおうと本に興味を持つと思う。

また、藤崎委員が話されたインターネットで読むのと紙で読むとでは、私がまだアナログ人間だからかもしれないが、やはり実際に本を手にとって読むということが本に親しむ気持ちにつながるのではないかという気がする。

### ○藤崎委員

都立の高校で、電子辞書を勧める学校と、電子辞書は禁止で紙の辞書にしてくださいと

いう学校がある。電子辞書だと調べたい単語にすぐたどり着くので、数を多く調べられるという考え方と、紙の辞書だと調べたい単語の一文字違いで別の意味があるので、それに触れさせるといふ考え方と、両方あっておもしろいと思う。先ほど読書の話をしてしながら途中で気付いたが、手法よりも、調べたいと思うかどうか、その時にあるかどうか、周りで普通に読んでいる人がいるかどうか、そちらのほうが重要だと感じた。

○鈴木委員

最後に二つ質問なのだが、一つは、心のノートというものがあるが、それは今どのように使われているのか。

もう一つは、我々の小さいころは、毎日日記をつけていた。日記をつけるということは、自分の今日1日の行動や感じたことを、頭で考えてしっかりまとめて書くことだが、今、毎日日記をつけているお子さんがどのぐらいいるのか。

○指導課長

心のノートは道徳の時に使うもので、副教材とは別にあり、資料等をもとに道徳の授業を展開する中で、あわせて心のノートも使用するという事になっている。

また、日記については、指導課ではどれだけの子がつけているかということは把握していない。

○鈴木委員

心のノートというのは、結局、道徳の授業の一環で、テーマは毎回違ってくるということか。

○指導課長

そのとおりである。道徳の授業に限らず、子どもたちが心のノートで日々の振り返りをするなど、様々な使用目的があると思うが、中心となるのは道徳の授業である。

○委員長

このことについては際限がないので、いかに大田区の子どもたちの学力を上げるかという自由な意見交換会を、別の機会に教育委員の皆さん方とできればよいと思っている。

それでは、ほかに意見や質問がなければ、承認してよろしいか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長

それでは、承認する。

日程第2

「部課長の報告事項」

○委員長

部課長の説明を求める。

○教育総務課長

資料) 大田区教育懇談会委員名簿

現在、おおた教育振興プランの改訂作業を進めているところである。策定委員会あるいは作業部会といった庁内組織（職員の組織）以外に、区内で活動されている団体の代表の方あるいは区民の方に委員として出席していただき、広く意見を求める場として教育懇談会を設置し、策定作業を進めているところである。

今回、教育懇談会の委員が確定したので、この場をもって発表させていただく。座長は、玉川大学客員教授の宮島雄一様にお引き受けいただいた。副座長には、清水教育長についていただく。それ以外の委員の方は、50音順に並べてさせていただいた。

何点か説明させていただくが、座長の宮島雄一先生は、過去に矢口東小学校の校長を経験されている。また、5番目の池田忠先生は、学識経験者ということで委員になっていた方で、帝京大学医療技術学部スポーツ医療学科の講師をされているが、過去に蒲田中学校、大森第十中学校、大森第四中学校の校長を経験されている。また、指導課の教育アドバイザーも経験されている。お二人とも現場の経験があり、現場に根差した意見を、より多くプランに反映できるかと思っている。

また、中段より下のほうの中西光彦様と東香織様は区民公募である。今回募集をしたところ、9名の区民の方に応募をいただき、作文と面接により選考した。

中西様については、現在の教育振興プランを策定する際にも、様々な御意見をいただき、今回は懇談会の委員として策定作業に参加していただく。

東香織様については、区立中学校に通っているお子様の保護者という立場で応募していただき、「今回、おおた教育振興プランを改めて読み返してみたところ、こんなによい計画があって、これをもとに各小・中学校で様々な授業が展開されているということに改めて気づかされた。ただ、これは私が今回応募をしたことで気が付いたことで、ほかの保護者の方はほとんど知らないのではないか。保護者の立場から、この策定作業に参加をして広く保護者にこのプランを広めてまいりたい。」とおっしゃっていた。

座長、副座長を含めて18名で、最初の懇談会は9月27日（金）、午後6時から予定している。

○委員長

ただいまの報告に、意見や質問はあるか。

○藤崎委員

大田区教育振興プランは、区報か何かに載っていた記憶があるが、区民や保護者に対して内容を説明する場はあるのか。

○教育総務課長

教育振興プランについては、概要版も作っているし、年4回発行している「おおたの教

育」を利用して周知を図っているはいるが、どの辺りまで周知がされているかはわからない。

○教育長

教育振興プランは、「おおたの教育」に掲載したり、教育委員長が議会で所信表明をする際に、これをベースにしながら達成の度合いなどを報告している。それ以外に、委員会などで教育委員会としてこれに関連した発表をしている。あとは各学校で、地域教育連絡協議会などで説明していると思うし、保護者の会合などでも概略は話していると思うが、詳細な説明会まではやり切れていないと思うので、おそらく詳細に中身を読んでいる方はそう多くはないと思う。もっとPRをしたり、説明の機会を設けることも大切なのかと思うが、教育委員会が日にちを設定して「教育振興プランの説明会を開くので来てください」と言っても、なかなか人が集まらないだろう。

○藤崎委員

教育委員として自分ができることの一つに、教育振興プランのPRというものもあるのではないかと思ったので、質問させていただいた。

○教育長

長塚副参事、中学校では教育振興プランを直接説明する機会というのはあるのか。

○副参事

基本的に、校長はプランに基づいて経営計画、経営方針を作るので、職員と保護者には周知するが、概要版を毎年全員に配布するところまではやっていない。この辺りの充実については、やはりいろいろなところで手を打たなければいけないと思う。

○委員長

任期はどれぐらいか。

○教育総務課長

来年の7月までである。

○委員長

了解した。

ほかに意見や質問がなければ、承認してよろしいか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長

それでは、承認する。

これをもって、平成25年第9回教育委員会定例会を閉会する。

(午後3時08分閉会)